

2025 年 おやじの山旅 北海道の山
(2025 年 10 月 1 日～10 月 7 日)



アポイ岳登山口にて (10月5日9時)



5合目小屋前にて (バックはアポイ岳)



アポイ岳山頂 (12月5日12時30分登頂)

1.趣旨

長年デンソー山岳部で活動した仲間達が定年を迎えた。
その仲間達で2016年におやじの山旅を立ち上げた。
かけがえのない仲間達で山を楽しみ続けてきた。(その10年目；記念の山旅)

2.コンセプト

山を通して自然・郷土料理、現地の人とのふれあいを楽しむ。

3.計画

山城・山名 北海道の山(積丹岳、塩谷丸山、樽前山、アポイ岳) 4座

期間 2025年10月1日(水)～10月7日(火) 7日間

参加者と役割分担

| No. | 氏名 | 役割 | 登山担当リーダー | 保険 | 生年月日 | 年齢 | 血液 |
|-----|--------|----------|----------|-----|------------|----|----|
| 1 | 金子 清 | CL・渉外 | 塩谷丸山 | 登山S | 1955/5/10 | 70 | A |
| 2 | 藤田 勝啓 | SL・装備 | アポイ岳 | 登山S | 1953/6/6 | 72 | B |
| 3 | 町田 修 | SL・地形・記録 | | 登山S | 1955/9/5 | 70 | B |
| 4 | 津田 廣一 | 記録(正) | 積丹岳 | 登山S | 1953/6/20 | 72 | O |
| 5 | 竹内 幹雄 | 気象・写真 | 樽前山 | ハイ1 | 1951/10/26 | 73 | O |
| 6 | 天野 広 | 会計 | | ハイ1 | 1955/4/25 | 70 | AB |
| 7 | 上田 正博 | 記録(副) | | ハイ1 | 1950/5/23 | 75 | A |
| 8 | 津田 利栄子 | (ゲスト) | | ハイ1 | | | |
| 9 | 鈴木 浩子 | (ゲスト) | | | | | |
| 10 | 上杉 由紀子 | (ゲスト) | | | | | |
| 11 | 吉田 有希 | | | 登山C | 1979/11/14 | 46 | B |
| 12 | 吉田 大輝 | (ゲスト) | | | | | |
| 13 | 吉田 沙月 | (ゲスト) | | | | | |
| 14 | 玉澤 憲明 | (ゲスト) | | | | | |

スケジュール(概要)

| No. | 2025年 月/日 | 山名 | 標高 (m) | 登山コース | 登山行動 時間(h) | 担当 | 宿泊先 |
|-----|--------------|-------------|-----------|--|---------------|----|------------------------|
| 1 | 10/1(水) | 移動・観光 | | 中部国際空港～新千歳空港～余市蒸留所 ～リフォレ積丹ホテル | | | リフォレ 積丹ホテル |
| 2 | 10/2(木) | *観光 | | 宿→美国港(グラスポート遊覧)→黄金岬 →神威岬→積丹岬(島武器海岸)→宿 | | 上田 | |
| 3 | 10/3(金) | 塩屋丸山 | 629 | 塩谷駅～登山口～450m台地～塩屋丸山 (往復) | 3:00 | 金子 | 休暇村 支笏湖 |
| 4 | 10/4(土) | 樽前山 | 1022 | *7合目駐車場～樽前山(東山) ～7合目駐車場(往復) | 4:00 | 竹内 | うらかわ 優駿ビレッジ AERU |
| 5 | 10/5(日) | アポイ岳 | 810 | アポイ岳ジオパークビジターセンタ～5合目 山小屋～馬ノ背～アポイ岳(往復) | 5:00 | 藤田 | |
| 6 | 10/6(月) | 予備日 (観光) | | エンルム岬公園展望台～日高馬邪溪 ～襟裳岬風の館など | | 天野 | |
| 7 | 10/7(火) | 移動・観光 | | 羊ヶ丘展望台～北海道大学総合博物館～ 新千歳空港～中部国際空港 | | | |

* 山道の荒れ状況を考慮し、10/2の積丹岳登山を中止、全員観光に変更（北海道へ出発前に相談決定）

行き（10/1）（飛行機）；SKY761 中部国際空港 7：10～新千歳空港 8：50

帰り（10/7）（飛行機）；SKY766 新千歳空港 19：30～中部国際空港 21：15

* 北海道での移動手段：レンタカー1台に便乗

北海道の山 登る山(3座)



10月1日 移動と観光（やっぱり余市）



余市ワイナリーで豪華昼食
(運転手に悪いな～)



ニッカウキスキー販売所へ



歓迎の
手作りケーキ
と紅茶



リフォレ積丹ホステル
(いいお宿)

10月2日 積丹観光（晴れの1日、ルンルンルン！）



美味しい手作り朝食だ！



美国港のイカ釣り船



断念した積丹岳



グラスボートから見た海底



カモメにエサやりだぞ！



グラスボート船上の面々



勝栄の旨い鮨（贅沢な昼食）



絶景の島武意海岸

10月3日 塩屋丸山（山頂の見晴らし素晴らしいね～）楽チン登山ランランラン♪♪♪



樹林帯を歩きます



1hちょっとで山頂です



決める男



笑う3人娘



祠の前で何祈る？



今日のご褒美、豪華ですね～

10月4日 樽前山 (ガスって強風、寒〜い登山でした)



車道を歩いて、やっと登山口へ



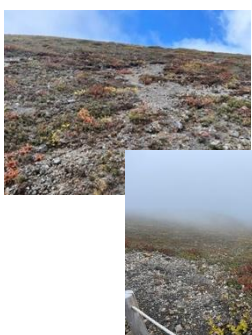
強風の山頂；飛ばされる〜 踏ん張る2人



笑う男



分岐を過ぎ風が収まる (ヤレヤレ)



一瞬の晴れ間 すぐガスる



ハイセイコー像(新冠)



AERU (今宵の宿)

10月5日 アポイ岳 (記念登山)



3合目で休憩



5合目(アポイ岳バック) 岩場の急登、一歩、一歩



7合目までもう少し



馬の背 (7合目) だ!



アポイ岳をバックに女性達



頂上だ!



頂上からの風景



下山時に鹿 (ビックリ!)



おやじ 10 周年の祝宴



記念撮影 (ハイポーズ!)

10月6日 様似町～襟裳岬観光



AERUの前でパチリ



観音山展望台の標識



観音山展望台にて



アポイ岳ジオパーク



日高耶馬溪の看板標識



トンネル(明治時代)



(大正時代)



風極の地とのこと・・・



こんな展示も・・・



パチリ



景色最高！



灯台もあり

10月7日 移動と観光



道の駅みついし (玉澤さんを囲んで)



羊ヶ丘展望台にてクラークポーズ



羊たち



お昼はジンギスカン



北海道大学総合博物館



鈴木章先生の部屋

2010年ノーベル化学賞受賞



ビックリ！



新千歳空港で乾杯

10/3 (金) 塩谷丸山 629m 晴れ

■ルート 塩谷丸山登山口駐車場～塩谷丸山登山口
～塩谷丸山～塩谷丸山登山口～塩谷丸山登山口駐車場
(全行程 6.2km 行動予定 4.0 時間)



参加メンバー

CL: 金子清、SL: 天野広
上田正博、竹内幹雄、藤田勝啓、津田廣一、
津田利栄子、鈴木浩子、上杉由紀子



塩谷丸山山頂

■行動 (行動時間 3 時間 25 分 休憩含む)

塩谷丸山登山口駐車場 9:55～塩谷丸山登山口 10:00～
塩谷丸山 11:15～12:05～塩谷丸山登山口 13:10～
塩谷丸山登山口駐車場 13:15

リフォレ積丹 Hostel を 8:10 出発。町田さんを JR 塩谷駅へ送り、塩谷丸山登山口駐車場へ向う。駐車場で上杉さんと合流する。身支度を済ませ 9:55 出発する。高速道路沿いを 5 分ほど歩くと登山口に到着。ここから登山道に入る。樹林の中をしばらく行くと急な登りになる。尾根の上部にでると傾斜が緩くなり、海岸の景色が見えてくる。ここから 20 分ほどで山頂に着く。60m 先の展望台まで行く。天気も良く 360 度の展望を楽しむ。北に石狩湾、南に羊蹄山が見える。山頂に戻り、記念写真を撮り休憩をする。下山は登ってきた道を慎重に下る。駐車場で上杉さんと別れ、休暇村支笏湖へ向う。



石狩湾を望む

塩谷丸山は 2014 年と翌年の冬に山スキーで登った。JR 塩谷駅からスキー板を担ぎ、途中からシールを付け歩いた。山頂からは上部の緩斜面を気持ち良く滑ったことを覚えている。

10 年余り経ち今回の登山を懐かしく思えた。(記: 金子)



山頂の方位盤



展望台



下山
8



展望台から羊蹄山

10/4 (土)「樽前山」1,022m 天気 晴れ (山頂はガス)

■ルート：五合目ゲート→七合目→東山 (山頂) →七合目→五合目ゲート (往復)

■行動；8：58 五合目ゲート→9：45 七合目駐車場

→10：45 東山 (樽前山・山頂) →10：55 分岐・休憩

→11：45 七合目駐車場→12：32 五合目ゲート

朝食を済ませて8：25 宿を8：25 出発。登山口に30分程で到着。計画では七合目駐車場まで車で入る予定だったが五合目で車進入禁止になっており、ゲートを閉めている。登山者は路上駐車して七合目駐車場まで徒歩で入っている。我々もここに車を駐車、傾斜の緩い車道を進むと45分程で七合目駐車場に到着。

トイレ休憩をしてから山頂を目指す。七合目からは整備された登山道で歩きやすい。登山口では晴れていたが分岐に到着する頃には雲の中で展望がない。分岐から10分程で樽前山 (東山) 山頂に到着。ガスっていて風も強いが集合写真を撮る。計画では外輪山を周回予定だったがガスっていて風も強いのでピストンで下山することにした。分岐まで戻ると風は収まり、ここで休憩を取る。更に降りていくとガスは取れ展望も良くなってきた。紅葉を眺めながら七合目まで下りる。ここからは車道歩きで五合目ゲートに下山。五合目ゲートの通行止めは予想外だった。

参加メンバー

CL：竹内幹雄、SL：藤田勝啓、金子清、上田正博、天野広、津田廣一、津田利栄子、鈴木浩子



五合目ゲート



七合目駐車場



分岐手前



登山道



分岐



樽前山 山頂 (東山)



分岐で休憩



紅葉



五合目ゲート

10/5 (日) アポイ岳 (810m) 晴れ

■ルート (冬島登山口～避難小屋～馬の背～アポイ岳～避難小屋～登山口)



参加メンバー

C L ; 藤田勝啓 町田修
 S L ; 津田廣一 竹内幹雄
 金子清 津田利栄子 吉田有希
 天野広 上田正博 鈴木浩子
 上杉由紀子 玉澤憲明



アポイ岳山頂

■行動 (行動時間 5時間45分 休憩含む)

9:05 登山口→10:05 3合目→11:00 避難小屋→11:35 馬の背→12:30-45 アポイ岳→13:20 馬の背
 13:45 避難小屋→14:20 3合目→14:50 登山口

アポイ岳は2015年に世界ジオパークに認定され、科学的に重要な地質や地形をもつ大地(ジオ)の公園(パーク)です。見所はマンツルの一部が地上に現れた幌満かんらん岩とアポイ岳固有の高山植物があり、花の100名山、北海道百名山にも選定されていて登山者に人気の山です。

登山口で恒例のラジオ体操後、吉田親子(大輝&沙月)に見送られ出発する。林道を歩いて行くと直ぐに沢が現れて、帰化植物の持ち込み防止のために靴底をブラシで洗う。登山道は緩やかな登りが続く。熊よけの鐘が所々に設置されていて、ガンガンと鳴らす。下山する登山者たちに挨拶や山情報を聞きながらゆっくり登る。4合目の休憩場は近くに小川が流れていて絶滅危惧種の日本ザリガニが多く生育しているそうです。5合目の避難小屋からは展望が開けてアポイ岳が望まれる。散策で登ってきた町田さんと玉澤さんとはここで別れて10人で頂上アタックに向かう。ここからは一気に急斜面になり、この山の特徴である緑色が混じる幌満かんらん岩が頂上まで露出している。かんらん岩の岩場を滑らないように登る。馬の背を前に一本とる。北にはアポイ岳からピンネシリ山、さらに日高山脈の脊梁が続く。南を振り返ると太平洋が見える。アポイ岳山頂はダケカンバに囲まれていて展望は良くないが、祠が設置されていて落ち着いて休憩ができた。集合写真撮影後に下山に取りかかる。おやじの山旅10年を記念して、区切りの山「アポイ岳」に登ることが出来た。(記:藤田)



大輝&沙月



玉澤さん&町田さん



かんらん岩の岩場を登る



太平洋が見える



馬の背からピンネシリ山を望む



馬の背 (奥はアポイ岳)



参加メンバー

天野広 町田修 竹内幹雄 津田廣一 金子清
藤田勝啓 上田正博 津田利栄子 玉澤憲明
吉田有希、大輝、沙月

■行動

8:50 うらかわ優駿ビレッジ AERU 発 → 9:10 観音山
→ 9:30 エンルム岬 → 09:50 アポイ岳ジオパーク
ビジターセンター → 11:10 日高耶馬溪 →
11:45 味処一條 → 12:45 襟裳岬風の館 →
16:00 うらかわ優駿ビレッジ AERU 着

宿を出発する前に、玉澤さんから「エンルム岬が良く見える場所に行こう」との提案があった。観音山に着くと展望台があり、先ほど見た「親子岩」や「エンルム岬」が良く見えた。「エンルム岬」はもともと島だったものが陸地との間に砂がたまって陸続きとなった「陸繋島(りくけいとう)」。海に突き出ているため、船の停泊に都合がよく、古くから港として栄え、そのことが今の様似の発展につながったそうです。その後、岬に行き階段を約30m登った。

「アポイ岳ジオパークビジターセンター」では①「かんらん岩」のできかた②アポイ岳の自然環境、③自然と人間社会の共生、などを学んだ。

[「アポイ岳ジオパーク」公式サイト-北海道で登山・花を楽しめる大地の公園](#)

日高耶馬溪では断崖絶壁と明治時代・大正時代に使っていたトンネルを見学した。

えりも町の食堂で食事後「襟裳岬風の館」に行き、まず風洞で25m/秒の強風体験をした。シアターではゼニガタアザラシの生態、コンブ漁やサケ漁など、えりも町の魅力を確認した。望遠鏡でアザラシの頭がぷかぷか浮いているのを眺める事も出来た。今日は風が弱かったので襟裳岬の先端まで歩き、良い景色を堪能した。

(記：天野)



観音山から親子岩



観音山からエンルム岬



大正時代に使っていたトンネル



25m/秒の強風体験



襟裳岬の先端から



記念写真

6. 特別寄稿

山に登らない山旅を終えて

町田 修

スイスの山旅で怪我した膝の治療中で登山は控えた。山に登らないなら、北海道の山旅に行く大義がない。しかし「おやじの山旅」10周年の大イベントを外すわけにはいかない。

よって、全工程を観光に変えた。積丹※1 半島は幸いにも、上田・竹内両氏が当初から観光の予定だったので、そこに入れ込んでもらうはずだった。ところが、積丹岳登山メンバーが八合目以降の登山道不備と、相次ぐ熊被害などを懸念し登山を中止した。結局、全員で積丹ブルーを観る①水中展望船&黄金岬②神威岬（かむいみさき）③積丹岬のドライブ観光で積丹半島を巡った。解ったことは、積丹ブルーが青い理由は、夏の穏やかな海と少ない海藻により海底の白い岩が透けて見えること、そしてウニが海藻を食べる食害が海底の「砂漠化」を引き起こしていることらしい。一押しはウニが積丹ブルーを演出し、そのウニは高値の華という悪循環、皮肉な結果なのだ。

もう一つは、いずれ積丹岳に登るために、またここに来るだろうと云う事か？

塩屋丸山と樽前山をパスし、旧知の友人“玉澤さん”と襟裳岬※2 の太平洋側を旅し、玉澤さん宅に泊めて頂いた。観光名所は避け、日高の山懐を巡った。平地の至る所がほとんど牧場で、それも競走馬の牧場である。明治以降、入植者（愛媛・兵庫・広島・富山・石川など）が山野を開拓し、作付けは馬鈴薯（ジャガイモ）、トウモロコシ、甘藷（サツマイモ）、粟、南瓜（カボチャ）などだった。その後、利益還元率を考え競走馬の飼育へと変化していき、最近では日高ならではの気象環境を活かしたイチゴ栽培にも変化しつつあるらしい。

強いインパクトを受けたのは果てし無く続く、新ひだか町の二十間道路。宮内省の御料牧場を視察する皇族の行啓道路として桜が植えられたのがはじまりとされている。この道の向こうに御料牧場が有り、宿舎がある。春、桜のころは素晴らしい並木となる。



神威岬ブルー



7km 続く直線道路

アポイ岳はみなさんと一緒に、五合目までゆっくり歩きました。それ以降は傾斜がきつくなり、苦勞することが判っていたので引き返しました。ほんの一時でしたが、みんなと10年目の山アポイ岳をご一緒でき満足です。

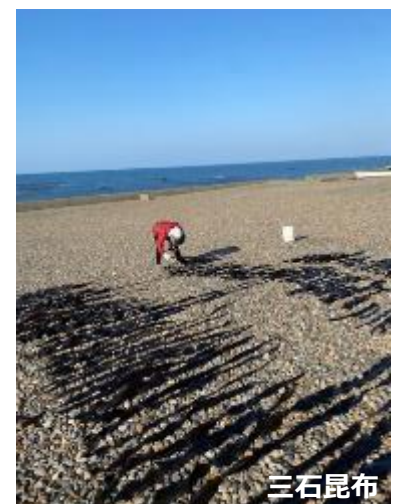
ここにも春、アポイの花々が咲くころに、またアポイに登りに来ることになると思う。

玉澤さん宅の前は、昆布を干す砂利の広場、その向こうに堰堤を経て砂浜と太平洋が広がっている。その海は三石昆布（植物名）の豊穡の海。海風に打たれ、流れ着いた昆布を拾う。重い昆布を背負い、砂利の広場に干す。昆布の根元を風上に向けて干す。朝一で拾い、その日のうちに干しあげた昆布が良い昆布とか。納屋では奥様が干しあがった昆布を所定の長さに切っていた。

お付き合いいただいた玉澤さんに感謝です。

※1 積丹の由来は、アイヌ語で『シャク=夏』、『コタン=場所』、シャクコタンで積丹。つまり『夏の場所』。

※2 襟裳岬の「えりも」という地名は、アイヌ語の「オンネエルム」に由来し、「大きな突き出たところ（大きな岬）」という意味。



三石昆布

10月2日

『ピロリン!!』「遅延補償するからー¥2000分さーマイル?ID?ナカ?何で受け取る??」

てなメールを、いい加減待ちくたびれたなあと思った頃受信した

飛び道具使うからにはある程度仕方ないアクシデントとは言え最近多いな

機内ではCAさんパイロットさん謝りまくりながら無事ランディング

レンタで“とくいち”さんへスタコラ……がーっ売り切れ……Ω\`ゞ)チーン

遅延め…ﾌﾟﾘ…液体味噌ラーメンの口やのに～

しかし落ちてはいられない、すぐさま“トリト”へ→行列必至の店だが変な時間なんですねGO

ん～美味しいけど、うちは“花まる”“北々亭”“なごやか亭”の方が好き

イクラに限って言えば新千歳空港の立ち食い“五十七番寿司”の半熟イクラだあ〇〇〇

札幌道路を飛ばし(赤色灯の覆パトに付かれたがギリ回避=由紀子の1秒(-ω-)/)

好きな“北一がらす”さん“札幌丸堂”さん覗くも**ぶっ飛ばし**たくなる程、中〇人物韓〇人物の集団

に阻まれ疲労困憊……“なると本店”さんの半身揚げでパワー充填!寝る

10月3日

早く寝て早く目覚める、これ摂理。早朝4時からやってる“亀十パン”さんへ、地元民に愛される名店だ

Lunch用にとバタークリームサンド&焼きそばパンGETするも我慢出来ずにバタークリームサンド食べる

久しぶりに“塩谷丸山”Pにて皆様と再会、BLUEにまみれるお山、めっちゃ登山日和

だが最近話題の大怪獣**クマー** どーする?? 山おやじ達は抜かりないですよv(^へ^)v

熊拳銃二丁携えていざという時にはキリやってやりますよ……多分……知らんけど……

お山は青空とスキの穂と海岸線のコントラストが見事!!

山行はこの時期なのに寧ろ少し暑いぐらいで岩場の風がとても心地よかった

山頂にてお姉さん二人組とお喋り、セコアプリで“コットンファーム”というペンションされているとか

機会作って行ってみよう。こーゆーの旅の出会いの醍醐味

下山後はデイナーで“潮騒亭”に行く為1人小樽にもう一泊、マスターのワホパだが札幌時代から好きな店

10月4日

グランバルHのすぐ横の“於古発川(おこぼちがわ)”には迷い鮭が沢山遡上する

下がコクリなんで産卵には適さないらしいのに毎年迷い込むのが風物詩らしい

息も絶え絶え～びちびちと頑張るが力尽き～旣にムシャムシャされる姿は切なく物哀しい

今日は皆様は“樽前山”に、私めは帯広競馬場に(∩´∀`∩)

第1レース:フジエース 第2レース:プリンセスコ 単勝とったどー!!

ばんえい競馬お初だが、ばん馬の大きさに圧倒され、ほんわかした雰囲気癒され、

地元民の憩いの場だと実感

ばん馬無しでは開拓はままならなかった歴史も有り、皆さん“推し馬”には愛ある声援でした

浦河の方まで来ると放牧された馬さん達が沢山、ばん馬とはシルエットが全然違う

車を止めて柵に近づくと、みんな人懐っこくわらわらと寄ってきてくれる、カワユス

Aeruにて皆と再合流。残念ながら山行はガッスガスだった模様

“樽前山”は“由紀百名山”候補に上がってるぐらいお気に入りのお山なんで

皆には変化に富む登山道と海岸線に支笏湖や溶岩ドームの景色を見て頂きたかった

残念(´；ω；`ウウ

10月5日

ユネスコ世界ジオパークの“アポイ岳”へ、この日も登山日和でBLUEにまみれてる
登山口まで道中の海岸線ではサーファー達が気持ち良さそうに波乗り中
車を止めて話を聞くと様似の海は札幌からもエントリーし易いし、ほぼ通年パワフルなブレイクが期待できるらしい
♪♪♪江の島が見えてきた～♪札幌の家も近い～♪♪♪湘南ちゃうけどつい口ずさむ♪
閑話休題・・・

山行は今日もちろん怪獣**クマ**対策バッチ

なんとケガをおして町田さん頑張る、五合目ピクよくやりましたよ(^_-)-☆ババチ 膝はよくっつけ！！
それにしても竹内さんも術後、藤田さんも術後、津田さんもケガあがり等々、皆どないなっとなる？！
色んな意味で強すぎる

かの論客ひろゆき氏が「山屋だけは絶対に敵に回すな」という主旨のYouTubeをあげていたが
確かにと納得するような行動の数々。こんなおやじの山旅のムツにも感心しきりなのだが
縁あって参加させてもらった町田農園リゴ狩りの懇親会では現役山岳部の方達の話聞く機会あり
それはそれは若干引くレベルのキ〇ガイっぷりで、何事にも上には上が…なのだと思った次第
……………だが……ん??おやじの山旅のムツも若かりし頃は同じような事してたんかも?
すげえロングコース歩いてたり水没テントで寝てたり石入れたザック担いだり…いやいや結構やっとな
今度詳しく聞いてみよう(´艸`)ﾌﾌ

アポイ岳は五合目過ぎると森林限界を越え視界が一気に開け、

珍しい“かんらん岩”(ペリドット新緑色で綺麗な石～誰かクレ)が沢山露出し始め、急登を経てピクへ

森林限界越えたはずの山頂にはダクバがニョキニョキ何故?

雪虫もブンブン津田さんの**蛍光緑**の洋服に異様に集ってきたーっ

虫は無視(;´∀´)してアポイBLUEを味わう、吉田岳・ピンネリへの効イインが素晴らしい

下山後センターのお兄さんにお聞きすると吉田岳までだけ行って帰ってきてても

充分ジオパーク的お花畑や岩稜にナキナキ(これは気配だけかも)が堪能出来るよということ

是非お花の時期に再訪したい、ついでに偏光顕微鏡の薄片観察バッチも

Aeruデーターでは“おやじの山旅10周年パーティー”

積み重ねた十年をそろって振り返るとい素晴らしい時間を共有出来てありがたい事です

10月6日

Aeruで集合写真を撮ってもらって観光の皆さんとはここでお別れ

ビッグレッドファームに車を走らせる、変顔と奇行の愛すべき強(狂)キャラサブレット“ゴルシ”ちゃんに会う為だ

のんびりと草を食んでる姿だけだと美形竹メのゴルシ 長生きしてほしいです

データーは“味百仙”じゃがいものバター煮がスパシャリティだが何を食べても旨い

2.3品アテに飲まさる酒“上川大雪”を楽しむ

10月7日

今日は皆さんは札幌観光、私は連れと旧交を温める

もちろん初日の“とくいち”さん朝8時半に到着でも行列なのには驚いたがバッチ済だ、余は満足満足

八紘学園にて北海道らしい野菜リキや手で皮がむける赤カゴもものすけ等 GET

ほんとは札幌大球(キャベツ)も欲しかったけど15～20kgあるんでさすがに重量オーバー

おいちいソフトクリームも忘れず食して空港へ

皆さんが締め飲みの頃、大好きな飛行機ビューの3Fラウンジでのんびり

搭乗口2回も変更、少々遅れも出ながら関空へ

今回もネタ豊富な充実した旅でございました 備忘録おしまい

おやじの山旅とアポイ岳の思い出

藤田勝啓

「十年ひと昔」と言われるが、おやじの山旅が始まった10年前（2016年）、定年退職して間もない頃で気力・体力・余暇時間に余裕があり、おやじの山旅メンバー達と同行する前後と合わせ23山の北海道の山を登った。真っ先に登ったのがアポイ岳でした。アポイ岳を選んだ理由は花の山として有名で、アポイ固有の高山植物を見たかったから、それと佐溝さんから浦河在住の玉澤さんを紹介されて一緒に登ったから。アポイ岳の後は楽古岳、伏見岳、剣山、芽室岳、富良野岳、積丹岳、羊蹄山、ニセコアンヌプリ、渡島駒ヶ岳、オレフレ山、札幌岳、樽前山、紋別岳、夕張岳、ピンネシリ山、南暑寒岳、神居尻山、黄金山、恵庭岳、風不死岳、空沼岳、神威岳と毎日登っていても疲れなかったのが懐かしい思い出です。

アポイ岳には20年以上も前の5月に絶滅危惧種のヒダカソウを見るために登っていて、幌満お花畑経由で頂上を目指しました。現在は盗掘や鹿の食害などで見られないようだが、キタダケソウに似た白い花卉を見つけた時は嬉しかった。3回目のアポイ岳は2017年のおやじの山旅のメンバー合流前に玉澤さんとピンネシリ山から吉田岳、アポイ岳の縦走登山を行いました。このコースはマダニが出没することが分かっていたので、6月の暑い日でしたが、Tシャツとパンツの上にカッパを着込んで肌を露出しないように歩きました。幸いダニに刺されることは無かったが、カッパの外側にダニが10匹以上張り付いていたのには驚きました。

そして今回でアポイ岳登山は4回目となりました。下山しながら、おやじの山旅で登った色々な山をフラッシュバックの様に思い浮かべました。北海道、東北、関東、中国、四国、九州、スイスと「よくまあ長く続いたなあ」というのが実感です。毎年、みんなで今年はどこに登るか？で始まり、山を登るために日頃のトレーニングと健康維持の節制を行い、計画日が近づくと、外乱が入らないように日程調整や体調管理をするのが常でした。残念なのは都合により、10年連続の皆勤が出来なかったことです。10年連続の皆勤賞の人には敬意を払いたいです。心残りの山には元気なうちに登りたいと思います。

おやじの山旅が10年も続いたのはメンバー全員がそれぞれ役割分担を持って、同じ方向を向いていた事かなと思います。10年は一区切り。

おやじの山旅メンバー、ゲストの皆様に感謝を申し上げて、次の10年もよろしくお願いします。

「おやじ山旅」の思い出

佐溝直彦

2010年頃、私は70歳で完全リタイヤして北海道各地での「お試し暮らし」をしていた時期、その頃、「おやじ山旅」の計画を知り多少はアドバイスできるかと思い、仲間入りさせて貰いました。私の都合のよい日だけの一部参加の形で、印象に残ったのは 摩周岳と礼文島トレッキング。心残りにはトムラウシ（私の入院時期と重なる）、近年は体力気力の低下の為スマホでアルバムコンテンツを見て皆さんの楽しさを共有させて貰っています。今後は、形は変わっても「おやじ山旅Ⅱ」が続く様・・・楽しみにしています。本当に有難う御座いました。

（オマケ・登頂出来なかった山はもっぱらユーチューブで楽しんでいます）



7. 参加者の所見と感想

<金子 CL>

おやじの山旅 10 年目を迎えた。

今回は北海道の山、塩谷丸山、樽前山、アポイ岳の 3 座を計画した。塩谷丸山、アポイ岳は好天に恵まれ景色を楽しみながらの山行ができた。樽前山はあいにくの悪天候で計画を短縮し、山頂往復に変更した。

山旅と併せて道中の観光は積丹半島方面では余市ワイナリー、積丹水中展望船（美国港）、黄金岬、神威岬・神威岩、日高・えりも方面では親子岩、観音山、エンルム岬、日高耶馬溪、アポイ岳ジオパークビジターセンター、襟裳岬、札幌近郊では羊ヶ丘展望台、北海道大学総合博物館を楽しんだ。

アポイ岳登山後は、うらかわ優駿ビレッジAERUに於て「おやじの山旅 発足 10 周年記念お祝い会」を開催し、10 年の思い出話に花が咲いた。この 10 年、メンバーの皆様には積極的にご参加、ご協力いただき、記憶に残る充実した山旅が実行できたことに感謝したい。

おやじの山旅 履歴

| No. | 年 | 期間 | 山城 | 主な山（標高） | 参加人数 |
|-----|------|-------------|-----------------|---------------|------|
| 1 | 2016 | 6/25～7/3 | 北海道の山（道央・道南） | 羊蹄山（1898m） | 13 |
| 2 | 2017 | 6/24～7/2 | 北海道の山（道東） | 羅臼岳（1660m） | 12 |
| 3 | 2018 | 6/30～7/8 | 北海道の山（大雪） | トムラウシ山（2141m） | 13 |
| 4 | 2019 | 6/22～6/30 | 北海道の山（道北） | 利尻山（1719m） | 13 |
| 5 | 2020 | 8/22～8/30 | 東北の山（南部） | 磐梯山（1819m） | 11 |
| 6 | 2020 | 10/16～10/25 | 東北の山（北部） | 岩手山（2038m） | 10 |
| 7 | 2021 | 10/6～10/14 | 関東の山（北部） | 谷川岳（1977m） | 8 |
| 8 | 2022 | 5/25～6/2 | 九州の山（北部） | 阿蘇山（1592m） | 9 |
| 9 | 2022 | 10/12～10/20 | 関東の山（南部） | 浅間山（2568m） | 9 |
| 10 | 2023 | 5/24～6/1 | 九州の山（南部） | 宮之浦岳（1936m） | 8 |
| 11 | 2023 | 10/8～10/13 | 中国の山 | 大山（1709m） | 11 |
| 12 | 2024 | 4/21～4/26 | 四国の山 | 石鎚山（1982m） | 6 |
| 13 | 2024 | 6/21～6/26 | 東北の山（南部） | 大朝日岳（1871m） | 8 |
| 14 | 2024 | 10/8～10/15 | 東北の山（北部） | 鳥海山（2236m） | 9 |
| 15 | 2025 | 7/15～7/27 | スイスアルプス（トレッキング） | スイスアルプス | 8 |
| 16 | 2025 | 10/1～10/7 | 北海道の山（道央・日高） | アポイ岳（810m） | 14 |

<天野 会計担当>

会計：特に問題なし

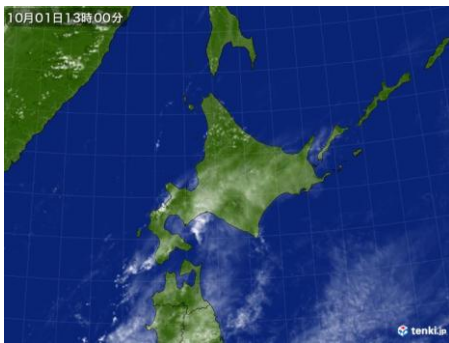
感想：

- ・積丹半島の観光は水中展望船の景色・かもめのエサやり、昼食の寿司、岬めぐりを堪能した。
- ・塩谷丸山は快晴の中風が爽やで楽しく登れました。頂上からの展望は素晴らしかったです。石狩湾がきれいだった。羊蹄山も頭を覗かせていた。
- ・樽前山はガスと強風で溶岩ドームが全く見えなかったなので、天気の良い日に挑戦したい。
- ・アポイ岳は登山道が良く整備されていて、熊やマダニにあうことも無く気持ちよく登れた。ただ 10 月の北海道なのにとっても暑かった。
- ・襟裳岬などの観光と最終日の羊ヶ丘のジンギスカンも良かった。

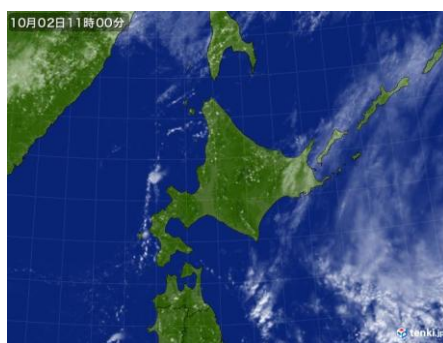
<竹内 気象&写真担当と感想>

気象担当：竹内 雨雲レーダーと行動

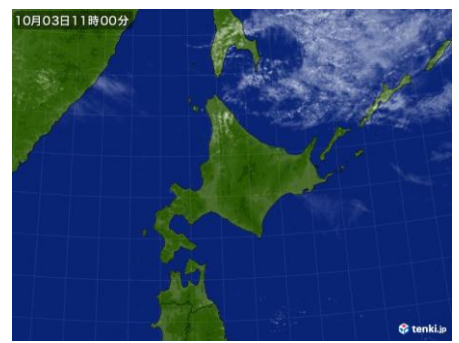
10/01 (水) 晴れ 移動日



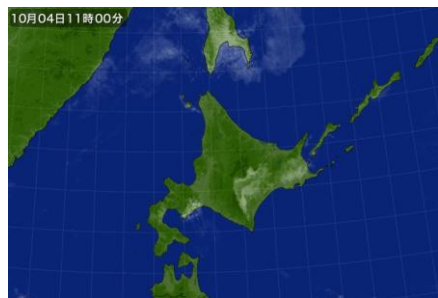
10/02 (木) 晴れ 観光



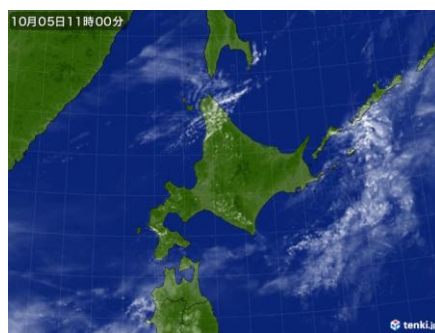
10/03 (金) 晴れ 塩谷大山



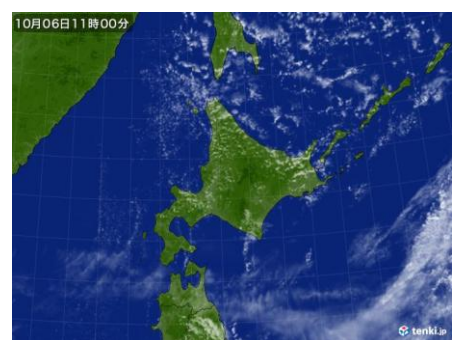
10/04 (土) 晴れ 樽前山
(山頂はガス、強風)



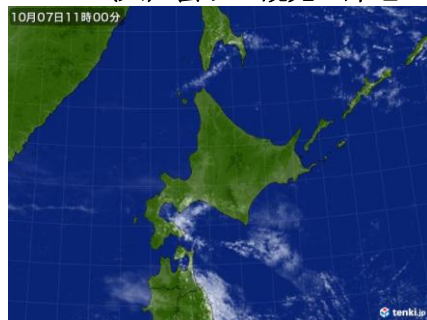
10/05 (日) 晴れ アポイ岳



10/06 (月) 晴れ 観光



10/07 (火) 曇り 観光・帰宅



10/01 晴れ セントレア空港から新千歳・積丹へ移動・観光

10/02 晴れ 積丹半島 観光

10/03 晴れ 塩谷大山 登山

10/04 晴れ 樽前山 登山 (山頂はガス、強風で眺望なし)

10/05 晴れ アポイ岳 登山

10/06 晴れ 襟裳岬 観光

10/07 曇り 札幌 観光 新千歳空港からセントレアに移動・帰宅

写真担当：竹内

天候に恵まれ登山、観光共に良く撮れた。

樽前山の山頂・外輪山がガスに包まれ眺望がないのが残念でした。

感想：竹内

天候に恵まれ観光、登山を大いに楽しむことができた。樽前山の山頂付近がガスに包まれて風も強く外輪山の周回をやめました、眺望もないのでいい判断だと思います。おやじの山旅 10 年目の節目ですが、ここまで続けてきて本当に良かったと思っています。皆様のおかげだと感謝しています。ありがとうございました。

<津田 記録担当>

おやじの山旅、10年たったのですね。原点回帰で、10年前の最初にチャレンジし、時間切れで登頂断念した積丹岳に再チャレンジしようと計画した。北海道へ向かう直前、木の枝による頭部強打対策でヘルメット持参を提案したところ、7合目以上の藪漕ぎ懸念から観光に変更の逆提案があり、登山メンバーの意向を再確認し、全員で観光する事に決定した。10年の歳月の成せる業だろうか？ お世話になった宿のご主人から伺った話では、地元の山岳会も高齢化で登山道整備が難しくなったとの事。又、我々の登山の為に、2本の鎌を準備して下さっていた。結果として、積丹観光は晴天にも恵まれ楽しいものとなった。

3座となった登山は、3日の塩谷丸山は、簡単に登れるも山頂の景色が素晴らしい山であった。
4日の樽前山は、強風とガスで山頂の景色も見えず。ピストンの残念な登山に終わった。
5日の10周年記念のアポイ岳は、5合目の避難小屋まで玉澤さん・町田とも同行する。2人と分かれてから、ペースを上げ、踏ん張って7合目へ。以後の尾根道は景色を楽しみながら記念登山を楽しんだ。
6日の様似(サマニ)・襟裳岬観光、7日の北海道大学博物館も充実した面白い観光だった。
登山と観光がバランスよく組み合わせられた山旅で、10周年記念の宴も楽しい宴となったと思った。

<上田 記録副担当>

今回の山旅は、10年前の第1回の山旅への回帰の山旅でもありましたが、積丹岳は前回と同様ブッシュ等の険しさもあり、断念して皆で観光主体の山旅となったことは、10年間における体力の低下や皆が楽しむ山旅を目指してきた結果だと思えます。美しかった積丹ブルーや日高の牧場の姿や北海道の旧友との再会、ヒット曲の襟裳岬観光など、仲間との充実した山旅を楽しむことができました。皆さん10年間サポートして頂き有り難うございました。これからも観光と温泉を交えた山旅を楽しみにしています。

<吉田 有希さん>

おやじの山旅が10年もたっていることに月日の早さを感じています。
このような会を毎年続けること、そしていつまでも元気でい続けたいという心持ちになれること、本当に素晴らしいことだと思っています。山を登る私も登らない夫&娘も、皆さんとお会いできるのをとても楽しみに迎え、ステキな時間を過ごすことができました。特に夜の宴会は時間が短く物足りないくらいでした。みんなで輪になり語らえる場は私達家族にとって本当に楽しい時間となりました。
これからもかたちを変えど、続けられる限り続けていければと思っています。

<津田 利栄子さん>

おやじの山旅、10年目の記念山旅に参加できたこと、本当に感謝でいっぱいです。ありがとうございました。積丹岳は晴天の中、美しい山容を眺めつつの観光となりました。塩谷丸山は、山頂からの眺めが素晴らしかった。樽前山は、またガスの中・・・残念！！ 3度目のチャレンジはあるのかな？アポイ岳は、以前登った時はホイホイと登れたと思ったのですが・・・コロナ罹患の後だから？それとも体力低下？途中からハーハーとなりました。10年前、全然歩けずお荷物の私を、「ダメですよ！！」と言えば簡単なのに、皆さんの懐の大きさに甘えて参加。毎回、今回限りかな？と思いつつ、なんと10年も参加！！ 北海道から屋久島まで(＋スイスまで)、楽しい時間を重ねることができました。もし参加できていなければ、今、私が宝物のように思っている“人との出会い”も、なかったかと思うと、参加できたこと、受け入れて頂いたおやじの方々に感謝しかありません。
子どもの頃から、ほとんど体を動かすことが出来なかった私ですが、山という目標のおかげで、少しずつ歩けるようになってきたのかな？(まだまだ迷惑かけていますが・・・)。次は年齢との競争？又、今年は熊の出没問題、自然との関わり方も考えなければ・・・おやじの皆さんらしい目標ある次のステージに向けていくことがあれば、又、お声をかけて頂ければとても嬉しく思います。本当に、本当に、ありがとうございました。

<鈴木 浩子さん>

お世話になった10年の歳月

ご一緒させていただいた多くの山歩き

なかなかわたし独りでは脚を向けるには容易くはない山々

10年とうとう最後の最後まで労せずに参加のおゆるしを賜わることとなったわたしである

10年前、第1回目の山行集合初日の夕暮れ、入浴施設の駐車場での夕焼け雲を追っていた刹那、虹が迎えてくれました

その記憶がまず思い出されます

「大丈夫、前へ進めますよ」と背中を押すような、励ましをもらったそんな温ったかな思いを授けてくれたのがあの時の北海道の虹の力でした

10年間一座一座、皆さまお一人お一人それぞれにお役を担い、1年目、2年目と回を増す毎に山行は、チームワークはブラッシュアップされ、安全を最優先にその和やかな山旅は続きます

そして、いつの時も穏やかな雰囲気
が山旅を包んでくれたことには10年を迎えた今日（こんにち）に至ってもあの時の虹の温ったかな励ましは少しの変わりもありません
皆さまとの素晴らしい山旅！

最後の最後まで、ずうずうしい参加者のわたし、だった

ご存知のとおりこんなわたしに出来ること、何か皆さんのお役にたてることあれば参じたいと

この10年、皆さまとの山行があったればこそ、参加させていただけたからこそ多くの愉快的時をご一緒し、そして歩ける躰づくりに励めたと、健康にあったと感じています

ご一緒させていただけて、ほんとうにほんとうに有り難かった
ありがとうございました



玉澤さん追悼

この山旅の感想が玉澤さんから届かないので、玉澤さん家へ電話をかけた。「デンソー山岳部 0B の・・・玉澤さん、いらっしゃいますか？」女性が出られて、「お父さん亡くなったんですよ」「えッ」と、一瞬、固まってしまった。「急だったんです。10月24日に容態が悪化し・・・医者から酒は止められていたが、飲んでいた」との事。10月5日にアポイ岳避難小屋まで一緒に登り、大宴会したばかり。7日に愛知へ帰る私達を道の駅“みついし”まで見送りにきて下さったばかり。これが最後の別れになろうとは・・・。

玉澤さんの思い出として、私と妻は8年前の7月に、玉澤さんに案内してもらってアポイ岳へ登っている。私達の為に、2Lの水を担ぎ上げ、山頂で湯を沸かしてコーヒーをご馳走してもらっている。何という人かな？と、思ったものだ。夕方の7時頃、ほろ酔い状態で「ツーさん・・・」と、よく玉澤さんから電話がかかってきた。20分ぐらい話して、最後に「北海道へ来て、我が家に泊まって行って」がパターンだった。その約束はもう果たせないか？マジで寂しいな～と思うばかりだ！

(記：津田)



10月17日、阿智村伍和のシナノスイートを毎年の恒例で玉澤さんに送った。21日、お礼の電話があり、長々と話をした。いつもの調子で屈託のない話だった。我々が北海道を離れた10月8日から、浦河は随分寒くなりストーブを炊き始めた・・・と。いい時にアポイ岳登山と襟裳の観光ができて良かったなあ。と、感慨深げだった。その三日後24日、玉澤さんは亡くなった。(11月18日津田さんのLINEで知る)

なんという事か。そんなに簡単に亡くなっていいのかと、信じられない心境で奥様に電話で話を聞いた。持病のリウマチが禍したのが主な死因らしいと仰っていた。そして、仲の良い友人たちと、好きな酒を、好きな煙草を嗜み、好きなように生きた。私は、“主人はいい人生だったんじゃないか”と思いますよ。と、しみじみ話された。私は何も言えなかった。

これから、増々寒くなります。どうぞお身体お大事にと、、電話を切った。北の地の、大事な友人を、山の先輩を亡くして残念である。今冬、玉澤さんから頂いた、玉澤さんが浦河の浜でひろい、乾かして仕立てた三石昆布を、鍋の底に敷いて、湯豆腐でもつつき一献やり乍ら、玉澤さんとの山行を旅の思い出を偲びたいと思う。

(記：町田)

参考；会計報告

| 項目 | 金額(円) | 備考 |
|------------------|-----------|--|
| 宿泊費 | 537,550 | 全日程7日間参加(6泊);59,100円/1人 (玉澤さん、吉田ファミリー分は含まず) |
| ドリンク代等 | 21,200 | |
| 交通費 | 172,757 | 全日程参加者 21,389円/1人 |
| (レンタカー代) | (122,512) | 交通費に含む |
| (ガソリン) | (21,585) | 交通費に含む |
| (高速代+駐車料+熊スプレー代) | (28,660) | 交通費に含む(高速代;8,660円 駐車場代;13,000円 熊スプレー代;7,000) |
| 合計 | 731,507 | |

【編集後記】

10年目の記念の山旅「北海道の山」が終了。アポイ岳を記念登山し、10年の山旅の祝宴も開くことが出来ました。参加者全員、それぞれに山行と観光、そして祝宴を楽しむことが出来ました。

10年目にして、登山と観光のバランスもよく、面白い山旅が出来たかなあ～と思っています。

目標の10年の山旅は終了しました。来年以降、新企画の楽しい山旅が始められたら嬉しいですね～